

教材3「暮らしを任せられる政党を見つけよう」

財政が厳しくなっており、一方、少子高齢化が進み財政をしっかりと活用しないといけない。暮らしに直結する課題を実現してくれる政党はどこか。公共事業、福祉教育の未来を考えて、その問題をめぐる多様な見解から、その政治的な教養を高めることによって、政治を身近にする。また、最後に、意志決定としての投票を行うワークによって、投票の意義や、社会的な合意とは何かを考える市民を育成する機会とする。

1 教材のねらい

社会では解決が求められる様々な社会的課題があります。それを政治家に任せていては、自分たちの声が届いているか心もとない。従って、アクティブな市民として、社会の意思形成を図り、公共性の高い、今回は「暮らし」を題材に政党をつくることによって中身を知ることができる。それぞれ、与えられたロール(役割)に即して議論、討論することによって、政治的教養が深まってゆく。そのことが、選挙時の投票選択の基準の一つを考える機会を提供することになる。

本教材は、政党をつくるというプロセスを通じて、社会の課題、今回は「暮らし」と政府の関わりを考える材料を提供する。その多様性、複雑さについて実感を持って伝えることができる。また、このワークで考え議論される政策が、多くの人々に影響を与え、この市民社会の未来を考える大事な公共性の高い議論となる。民主主義社会における社会的な課題の解決に市民が目覚め、政党を選ぶ選挙へその意思を表示することの大切さを実感する基礎的視野を、グループワーク参加者は実感することができる。

グループワークが大切なのは、自らの見解を広げ、社会的な課題を公論で議論できる非日常の空間である。この練習は、日々の忙しい生活の中でも、公的なものに参加し、社会の一員である責任を体感する上で大きな役割がある。シティズンシップ教育では、単に、個人の権利主張だけの問題でなく、市民社会として、自分と違う弱者や、考えの違った人々の声に耳を傾け、どのような社会が、あるいは未来が、自分たちに必要なものなのかを獲得することが大事になってくるからである。

2 教材の特徴

ロールプレイであること。与えられた役割(ロール)に即して、擬似的な政党をつくる。そのロールを実行しながら、政策の中身の理解を深める。また、その政党のマニフェストをつくることによって、政党の機能を身につけていく。台本はないので、それぞれの立場についてのコンセプトを理解する。疑似政党グループ内でより政策を固め、プライオリティ(優先順位)を議論すると良い。今回は、3つの政党を擬似的につくってもらうが、参加者の中で、4つ目の政党をつくりたいという場合は、立ち上げてもらうと良い。

3 この教材で取り上げる社会的課題

日本の財政は、国地方合わせて、1000兆円の借金となり、先進国でも危機的状況である。そこで、財政再建は喫緊の課題である。しかし、国民の暮らし、福祉や教育、安全を財政が支えていることも間違いない。単純に増税したら、その中で、特定の人々が困ることも想定される。この複雑で大切に、待ったなしの課題に、どのように、民意(国民の声の反映)を政治が取り上げるかは未来に責任ある政党の義務といっても良い。

したがって、この課題を取り上げて模擬政党をつくり、議論する価値と、政党の機能、公正な選挙の役割を知ることは、参加者の主権者意識と、民主主義の形成に参画していくことの大切さを、生の政治課題から実感することになる。

4 学習の進め方

全体の流れと所要時間

- ・ 政党と、選挙のやり方を考える選挙推進管理グループをつくる(10分)
- ・ 政策を練る(20分)
政党のコンセプト(資料2)を先に渡せば、時間の短縮になります。
- ・ 政策を広げる・選挙をする(30分)
- ・ 投票をしてみる(10分)
- ・ ふりかえり(20分)

(1)政党と、選挙のやり方を考える選挙推進管理グループをつくる。(10分)

①4つのグループをつくる。

ア タイムライン(例えば誕生日の早い順に並び、番号をふる)で、4つのグループをつくる。希望者でつくっても良い。

イ 属性によって、市民、選挙啓発グループ、選挙管理委員会職員、明るい選挙推進協議会会員などがうまく分散するようにしても良い。

ウ この教材では、「財政再建党」、「どんどん仕事党」、「教育福祉党」の3つの政党と、選挙推進管理グループをつくる。他に政党をつくってもいいが、それだけ時間はかかるようになる。

②政党名をつける。

政党名をつけ、政党党首を選出する。

(2)政策を練る。(20分)

①政党グループ

ア わら半紙に、自分たちの政党のコンセプトに合わせた政策(マニフェスト)をつくる。書記を決めて、提案をわら半紙に大きく書いてメモしてゆく。政策のばらまきにならないように、プライオリティをつける。

イ どのような年齢階層やどんな地域に、特に訴えていくかを考えてみる。

ウ 選挙用のタスキ(わら半紙を使って)、ポスター(模造紙)をつくる。

②選挙のやり方を考える選挙推進管理グループ

上記(1)政党をつくる、(2)政策を練る間に、以下のことを進める。

ア グループのリーダーを決める。

イ どのように選挙を公平にしきるかを考える。

投票用紙は？ 選挙公報は？ 公開討論会をどう公平に運営するか？
できれば選挙公報を発行する。

ウ 市民に対する選挙の周知と投票推進の方法を考える。

(3)政策を広げる・選挙をする。(30分)

- ・選挙活動(公開討論会) 政策発表5分、討議5分(×政党数)
党名のたすきをつけたり、模造紙を見せて自分たちの政党をPRする。
- ・選挙推進管理グループは、発表の順番を公平に抽選で選ぶ。

(4)投票を試みる。(10分)

可能なら、選挙管理委員会から投票箱、投票記載台を借りて投票する。

選挙推進管理グループは、

- ・投票よびかけ紙(投票所入場券)を参加者全員分つくって配布する。
- ・投票所を開設する。
- ・受付で投票よびかけ紙を受け取り、投票用紙を発行する。
投票用紙は、政党名を記載した紙をつくる(コピー)か、白紙に政党名だけ書いてもらうことにする。
- ・投票後、開票する。
各政党の得票数、無効投票数を発表する。また、判断が難しい記載があれば、選挙推進管理グループが、全体に示して、選挙推進管理グループの見解を発表する。

(5)ふりかえり(20分)

- ・ロールプレイをしてみたの感想を聞く。
- ・政党の立場をやってみての感想、選挙推進の立場をしてみたの感想を聞く。
- ・国民が政策を理解するには、どのような方法があるか。
- ・選挙の意義、方法が伝わったか議論する。

5 準備する物

- ・模造紙 政党の数×2くらい
- ・マジックペン 3色以上×15本くらい
- ・わら半紙 30枚

6 役割

☆ファシリテーター

- ・全体の時間管理をしながら、グループ分けを行う。
- ・場が和やかに過ごせるような気配りと、このワークのねらいを説明する。
- ・ワークの流れを見ながら、ワークが効果を上げるように事務用品を供給する。

☆各政党

- ・それぞれが、各政党の特色、アピールポイントを有権者(参加者)に理解してもらえるように工夫する。あまり難しい内容にならないように、わかりやすいキャッチフレーズをつくるのが効果的である。
- ・弁舌さわやかな党首の選出も、政策の理解に加えて、選挙対策としても大切である。
- ・たすきや、ポスターを模造紙でつくり、選挙活動を盛り上げる。日本の選挙はまじめ過ぎて、楽しさやアピールの力が欠けるので、PR力をどう高めるかも考えると良い。

☆選挙推進管理グループ

- ・選挙を公正に、盛り上げる。
- ・楽しく盛り上げるための司会の話術や討論会や選挙会場の設定などに、公正、正確だけでなく、広範な有権者に、選挙の楽しさ、意義を伝えるには、どのような作戦を立てて、実践すれば良いかを真剣に考えて、やってみる。
- ・場合によっては、公職選挙法の課題について考えてみることも必要である。

☆助言者

- ・全体の進行をみながら、アドバイスをして回る。
- ・ファシリテーターを兼ねても良いが、専門家(研究者、教員、選挙管理委員会のスーパーバイザー的な管理職)が、ファシリテーター以外にオブザーバーとして参加することによって、より高い見地から助言やまとめを行うことができる。

7 具体的な手順

(1)グループ分け

①同じ仲間や自分の考えや趣向によってグループをつくることもできる。

②意識がそれほど高くない集団、強制的にグループワークに参加する集団の場合はうまく偏りを減らしながらグループをつくる。その際、参加人数にもよるが40人以上60人くらいまでなら、模擬政党を4つまでは増やせる。これ以上グループを細分化すると、このワークが難しくなり過ぎる。また、2グループだと選択肢が少なく投票への判断が難しくなる。

③参加者の意欲レベルが高く、選挙啓発の活動をしている参加者が多くいれば、個人個人バラバラのグループに分けても良い。

※選挙管理委員会の職員や明るい選挙推進協議会の会員が、できれば4つのグループに万遍なく入ると良い。ファシリテーターになるからである。ただ偶然が支配するので、それを気にするかは、このワークのリーダー(ファシリテーター)が決めて、グループ確定前の若干の修正はあり得る。

グループ分けの方法を考えることも大事である。例えば誕生日順のタイムラインをつくる際、黙って身振り手振りで順番の入れ替えを行うと面白いし、親和性が高まる(アイスブレイクにもなる)。

(2)自己紹介・アイスブレイク

参加者の緊張をほぐし、当日の課題へ向かうアイスブレイクの方法は、いろいろある。

紙を2回折って開くと4つの書くゾーンができるので、1つのゾーンは名前、1つのゾーンは趣味、1つのゾーンはこのワークに望むこと、1つのゾーンは最近の選挙啓発活動(あるいは自分の大切にしていること)の実践を、それぞれ1行くらいで大きく書く。それを見せ合いながら、自己紹介を行うと良い。

(3)学習の進め方の説明

- ①このグループワークの目的、政党の機能を理解してもらう。
- ②選挙の枠組みを理解し、公正公平に運営することを実践してみる。
政党グループは、**ワークシート2「政党政策づくり」(39-40頁)**を使う。
選挙推進管理グループは、**ワークシート3「選挙推進管理」(41-42頁)**を使う。

(4)社会的課題の把握

⇒資料1「わたしたちの国の財政の現状と財政再建」(36-37頁)

参加者が日本の財政状況に関する知識がない場合など、研修会の主催者が10分程度、日本の財政の基礎をレクチャーすることが必要な時もある。

(5)役割の理解

①3つの政党

⇒資料2「各政党の見解」(38頁)

それぞれ、ロール(役割)が設定されており、そのロールを短時間で理解して、それを参加者(国民)に幅広く理解してもらうことを目的に、チームで活動する。

役割を演じることでこの財政再建の課題が明確になるし、課題をさらに掘り下げるために、ワーク会場でスマートフォンやタブレットを使って、情報を収集することも必要になる。協働してこの課題に取り組みように、役割の中身を議論して、それぞれの役割を実行できるように、確認してからワークを始めたいものである。

選挙管理委員会の職員がワークに参加する場合は、その中でリーダー的にこの役割を実行するか、逆にアドバイザー的に困ったときのサポートに徹する。どちらにしても、専門的視点から、参加・参与していただくと全体のレベルアップができる。そのことによって、このワーク研修の参加者の達成度が上がる。

②選挙推進管理グループ

選挙活動を盛り上げ、公正に公開討論会を実施し、投票を管理する。

※賛成反対の単純な役割ではないので、各政党や選挙推進管理グループは、よくこの役割を理解する必要がある。役割理解をしっかりとしないと、グループワークが成功しない。

(6)ロールプレイ 各グループでそれぞれ議論して行う。

各政党は、党首を決め、政策について話し合うので、日本の財政に関して、政策の内容を深めて知ることができる。

選挙推進管理グループは、選挙を公正に盛り上げて、有権者(参加者)全体に分かりやすく知らせること、盛り上げるにはどうしたら良いかを工夫してみる。単純に選挙啓発を考えるだけでなく、具体的な、シングルイシューの選挙を運営するロールを実践することで、知恵が生まれ、現在の選挙啓発の課題を発見する気づきを得ることができる。

(7)政策発表討論会

政策発表は、有権者(参加者)に訴える大事な場である。たすきや、模造紙による分かりやすい政策提示など、各政党は工夫して望む。討論でも、政策がうまく伝わるように、質問に答えながら、党の優位性を伝えるようにがんばる。最終的に、票を得る政党の心理を体感することによって、政党の役割と特性を理解していくことになる。

選挙推進管理グループは、発表の順番をくじ引きで決めるなど公平を旨とした運営に留意する。司会は討議にあたって、質問者に公平にあてて、政策が深まるように促す。時間の管理も大事なポイントになる。

(8)話し合いのルール

①実際の自分の考えではなく、役になりきって、その役割を果たすようにする。

②話し合いがうまくいくように、次の点を心がけましょう。

- ・集団で考えることによって良い知恵が出る。
- ・グループのメンバーを批判せず、意見を多く出し合う。
- ・他者の意見を生かすように、全体を運営する。
- ・まとめ役として、グループリーダーは活躍する。

③選挙管理委員会や明るい選挙推進協議会の方がいる場合は、選挙運営の視点からワークがうまくいくように、グループ全体に助言する。

④批判されていると感じたとしても、それはこのワークを達成するための努力であり、感情的にならず、冷静に対応する。意見と人格は違うことを確認して、冷静にワークを続ける。建設的に全体のワークが達成できるように、がんばってください。

(9)投票

①事前に、投票案内、選挙人名簿(参加者名簿)を用意して、模擬選挙会場をつくる。

②できるだけ本当の選挙につながる投票用紙、例えば選挙管理委員長の印鑑付のものを発行する。

③投票後、公正に開票する。

(10)ふりかえり

この模擬政党、模擬選挙管理委員会、模擬選挙を通じて、それぞれのロールにとって、どんな気づきがあったかをふりかえる。自分のまとめた意見を全体で交流することによって、このワークショップの成果を全体で共有することができる。3すくみの3つの政党を設定することによって、多様な政策を提示できるので、政策を理解する上での深まりについても意見表明すると、政治の意志決定すべき内容の一つを理解することにつながる。

資料 1「わたしたちの国の財政の現状と財政再建」

1 財政状況

日本の財政は、世界的にみてもかなり深刻な状況にある。国債と財投債はGDP比200%を超えた。国債と地方債の合計は1000兆円となり、その金額の大きさ、日本の経済水準との関係でも困難がある。ついに、戦前の戦争中の国家赤字水準を突破した。日本銀行総裁は財政規律の大事さを語り、消費税増税が決まっているが、プライマリー・バランス(基礎的財政収支)が取れる見通しさえ厳しい。

借金を返さなくては、インフレーションで国民生活が大変になる。また、財政が使えなくなれば、国民の景気、教育・福祉にも大きな影響が出る。その中で、財政再建が必要となっている。専門家(日銀、財務省)がうまくやってきたが、今後の見通しが無い。誰かが、この問題を解決しなくてはならない。また、それには、政治上の意志決定が必要である。

とすれば、この課題を引き受けて、国民に政策提言をして、選ばれて改革に当たらなくてはならない。そこで、3つの視点を提示する。

一つ目は、財政再建を第一にして、財政の縮小(行政改革)、増税を語る政党である。この政党は、財政の危機を国民にしっかりと説明していく。未来の若者に借金を残さないようにする。⇒財政再建党

二つ目は、景気を良くすることで財政再建の解決をめざす。重点的な公共事業で、企業をもうけさせ、給与を上げて、税金を取りやすくする。規制緩和をすすめ、新しい民間の力で、経済発展をめざす。⇒どんどん仕事党

三つ目は、財政再建で切り捨てになりそうな、教育・福祉へのセーフティネットの再構築を提案する。声を上げないと減らされる財政資金の重点配分を要求し、少子高齢化に対応する安心した政治をめざす。⇒教育福祉党

この3つの論点で、3すくみで議論すれば、日本の未来の財政のあり方、重点化の方向が市民的熟議としての模擬選挙で語られ実現していくのである。

2 財政再建の方法も多様にある。

まず、増税である。増税は、その対象になる人々で軋轢がある。法人税は財界が反対し、消費税は国民全般が反発する。累進課税の視点から、税を払える人・企業に払ってもらうことも大事である。そのように、どのような税で、誰から集めるのか、公平で平等なのかも、大いに議論となる。

次に、行政改革や、財政の切りつめである。行政改革に異論のある人は少ない。しかし、国民や市民一人あたりの公務員数は、日本は少なく、非正規化も進んでいるので、公務員を減らしたり、民営化することでは限界も多い。また、極端に現在の予算を削れば、削られた階層や企業から批判もあろう。これは、単純にお金はないからできないという結論では進まない課題なのである。

資料2「各政党の見解」

①財政再建党

国・地方1000兆円を超える借金は、国民の未来に暗雲を漂わせている。国が破綻したら、福祉サービスも警察も機能しなくなる。どうやって、この借金を減らすかを考えるのは、未来への責任である。ただ、財政を減らすだけでは、国民の中に困る人も出てくるので、行政改革で小さな政府をめざし、公務員を減らす。また民間でできることは、民間でやってもらう。貧困の人には、福祉の削減は厳しいので、対策を取りながら、消費税増税を進める。

②どんどん仕事党

財政再建も大事だが、まず、景気を良くして、税収を上げることが大事である。地方創世、少子化対策など、重点的な政策が必要である。また、公共事業も、オリンピックに向けて、全国の交通網の再整備も含めて行わないといけない。海外のODAもうまく使って、日本の企業に仕事を増やさないといけない。財政的に苦しいが、仕事があってこそ、この国が幸せになれる。福祉、医療などに回すお金は節約しつつ、消費税増税は仕方がない。

③教育福祉党

財政が厳しくても、憲法で保障される最低の権利は必要である。新たに子どもの貧困など、中間層が崩壊してこの国は、大変な格差社会になっている。正規の労働を増やしつつ、税金を困った国民のために使わないといけない。また、国際化、情報化に対応して、学校教育を改革しないといけない。グローバル人材の育成や、小学校からのIT教育など、世界で働ける国民を育てる充実した教育政策を、もっと財政も投入して行わないといけない。

ワークシート2「政党政策づくり」

氏名()

<政党の特色(目的)の共有> (各人のメモ)

<党首の選出>

さん よろしく!

<政策を列挙、具体例も考えてみる>

A()
そのメリットは?

B()
そのメリットは?

C()
そのメリットは?

D()

そのメリットは？

E()

そのメリットは？

<優先順位の議論>

No.1は

No.2は

No.3は

<どんな年齢階層、地域に重点的に訴えますか？>

皆様 ご苦労様

ワークシート3「選挙推進管理」

氏名()

<選挙推進管理(目的)の共有> (各人のメモ)

<グループリーダーの選出>

さん よろしく!

<立ち会い演説会の運営方法・ポイントを検討してみる>

A

B

C

<選挙啓発のやり方を検討する>

<演説討論会の進行表>

司会

さん よろしく。

<模擬投票の手順・運営方法は？ 準備メモをつくる>

皆様 ご苦労様